

技術等提案書評価基準

(1) 技術者評価基準

表-1 技術者評価基準

評価項目		評価の着目点			評価		
					A	B	C
配置 予定 技術者	管理 技術者	資格要件	技術者資格	技術者資格、その専門分野の内容	技術士（農業、環境、建設）の資格を有する	RCCM（農業土木、土木）、農業土木技術管理士のいずれかの資格を有する	－
		専門技術力	業務執行技術力	過去の同種又は類似業務の実績の内容	同種業務の実績がある	類似業務の実績がある	－
		専任性	専任性	手持ち業務金額及び件数	Cに該当しない	－	全ての手持ち業務の契約金額合計が2億円以上又は手持ち業務の件数が10件以上
	担当 技術者	専門技術力	業務執行技術力	当該部門従事期間	当該技術分野の従事期間が15年以上	当該技術分野の従事期間が10年以上15年未満	当該技術分野の従事期間が10年未満
		専門技術力	業務執行技術力	過去の同種又は類似業務の実績の内容	同種業務の実績がある	類似業務の実績がある	－
	照査 技術者	資格要件	技術者資格	技術者資格、その専門分野の内容	技術士（農業、環境、建設）の資格を有する	RCCM（農業土木、土木）、農業土木技術管理士のいずれかの資格を有する	左に該当しない
		専門技術力	業務執行技術力	過去の同種又は類似業務の実績の内容	同種業務の実績がある	類似業務の実績がある	－
	ヒヤリング (管理技術者 又は担当技術者)	専門技術力の確認		専門技術力の確認	実績として挙げた業務の担当分野に、中心的・主体的に参画したことが確認できる	左に該当しない	－
		コミュニケーション力		質問に対する応答性	質問に対する応答が明快かつ迅速	左に該当しない	－
取り組み姿勢		業務への取り組み意欲	業務への取り組み意欲が旺盛かつ適切な質問、意欲表明あり	左に該当しない	－		

※ 同種業務とは、海岸保全施設における指針の検討に関する業務のこと。

※ 類似業務とは、農業農村整備事業における指針の検討に関する業務のこと。

※ 「手持ち業務」は、契約金額が500万円以上の業務を対象とする。特定後未契約のものがある場合は、参考見積金額を契約金額とする。

(2) 提案内容評価基準

表－2 提案内容評価基準

評価項目	評価の着目点	評価		
		A	B	C
実施方針・ 実施フロー・ 工程表・ その他	業務の理解度	目的、条件、内容が簡潔に表現されている	左右に該当しない	目的、条件、内容が簡潔さに欠ける
	業務実施手順 (フロー・ 工程表)	業務実施手順が妥当	左右に該当しない	業務実施手順に矛盾がある
		業務量の把握が適切	左右に該当しない	業務量の把握が不適切
特定テーマ に対する 技術等提案	的確性	地形、環境、地域特性などの与条件に整合する	左右に該当しない	与条件との整合が十分でない
		必要なキーワードが網羅されている	左右に該当しない	必要なキーワードが全く示されていない
	実現性	提案内容に説得力がある	左右に該当しない	提案内容が荒唐無稽である
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている。	左右に該当しない	提案内容を裏付けが明らかでない

(3) 評価要領

表-3 プロポーザル評価表

評価項目		評価の着目点			配点			評価	評価の換算計算	評価点		
					項目別	複数時配分	項目別配分			項目別	複数時配分	項目別配分
配置予定技術者	管理技術者	資格要件	技術者資格及びその専門分野の内容	◎	50	25	10					
		専門技術力	同種又は類似業務の実績の内容	◎			10					
		専任性	手持ち業務の契約金額及び件数	◎			5					
	担当技術者	専門技術力	当該部門従事期間	○	15	5	5					
			同種又は類似業務の実績の内容	◎			10					
	技術者 照査	資格要件	技術者資格及びその専門分野の内容	○	10	5	5					
専門技術力		同種又は類似業務の実績の内容	○	5								
ヒアリング	専門技術力の確認			◎	15	15	5					
	質問に対する応答性			◎			5					
	業務への取り組み意欲			◎			5					
実施方針 実施フロー 工程表 その他	業務の理解度	目的、条件、内容の理解	◎	15	15	5						
	実施手順	実施手順の妥当性	◎			5						
		業務量把握の妥当性	◎			5						
特定テーマに 対する技術提案	的確性	与条件との整合性	◎	20	10	5						
		キーワードの網羅	◎			5						
	実現性	提案内容の説得力	◎		10	5						
		提案内容の裏付け	◎			5						
合計					100							
参考見積	提案内容と見積内容の整合性			◎								

◎：標準評価項目

○：追加評価項目

プロポーザル評価表記入上の注意点

- ① 各評価項目について、A、A'、B、B'、Cの5段階評価を行う。
なお、A'は評価A、Bの間、B'は評価B、Cの間とする。

- ② 評価は5点満点とし、次のとおり配点する。

A=5点、A'=4点、B=3点、B'=2点、C=0点

なお、配点10の項目については、下記のとおり配点する。

評価Aであれば $10 \times 5/5 = 10$ 点

評価A'であれば $10 \times 4/5 = 8$ 点

評価Bであれば $10 \times 3/5 = 6$ 点

評価B'であれば $10 \times 2/5 = 4$ 点

評価Cであれば $10 \times 0/5 = 0$ 点

- ③ 総合評価結果の最高点の事業者を特定する。但し、最高点の事業者が複数となった場合は、順次、管理技術者の得点が高い者、担当技術者の得点が高い者を上位とする。